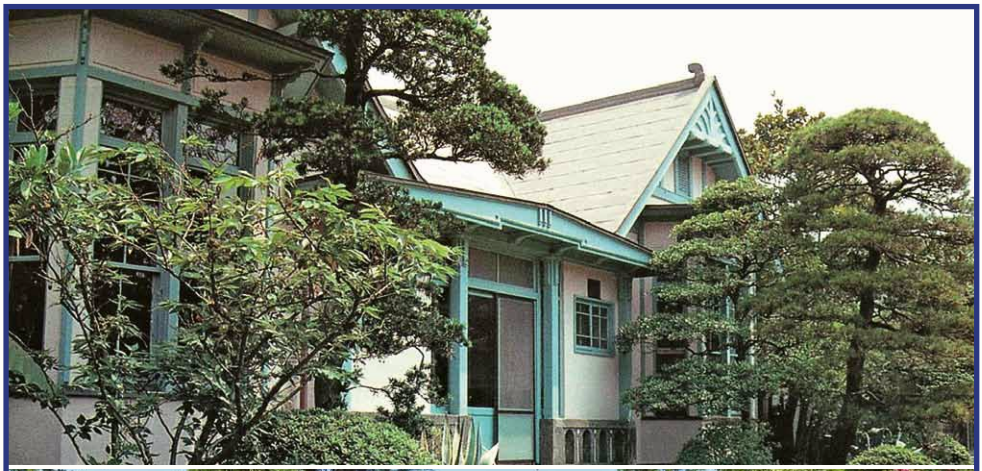
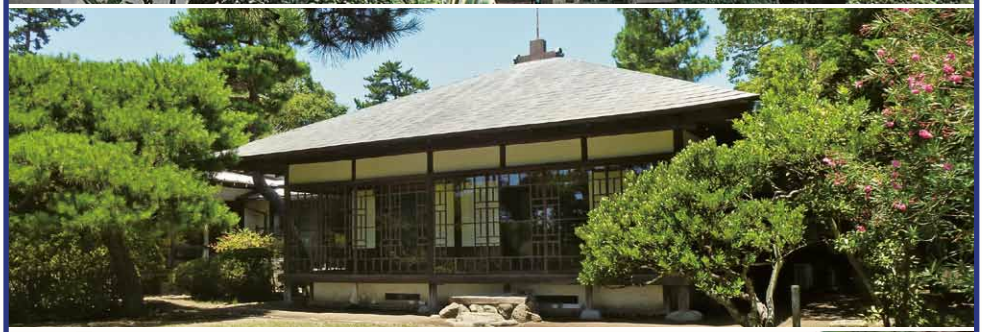
大磯建物語

明治記念大磯邸園

旧伊藤博文邸｜旧大隈重信邸｜旧陸奥宗光邸





大磯に「別荘文化」が花開いた時代に

近代国家を目指し、立憲政治確立に尽力した偉大な先人たち。その中より大磯に今も邸宅が残る旧伊藤博文邸、旧大隈重信邸、旧陸奥宗光邸を紹介します。

旧大隈重信邸

「政界の奥座敷」大磯

大磯には、1885年（明治18）松本順（初代陸軍軍医総監）により健康増進のために日本初となる大磯海水浴場が開設され、1887年（明治20）に大磯駅や旅館「禱龍館（とうりゅうかん）」が開業。やがて保養地や避暑地（避寒地）として大磯の人気が急速に高まっていきます。

なかでも、明治期に初代総理大臣として活躍した伊藤博文をはじめ、山縣有朋、大隈重信、西園寺公望、寺内正毅、原敬、加藤高明、吉田茂の８人の総理経験者のほか、陸奥宗光や林董、後藤象二郎などの政治家も大磯に邸宅を構えたことから「政界の奥座敷」と呼ばれました。

また、三井・三菱・安田・古河などの財閥や尾上菊五郎、中村吉右衛門、片岡仁左衛門といった歌舞伎俳優など文化人も次々に邸宅を所有していきます。1908年（明治41）日本新聞社実施の「避暑地百選」の全国投票では、大磯が軽井沢を抜いて第1位になったこともありました。

８人の首相似顔絵はがき（イラスト：河口邦山）
（公社）大磯町観光協会 提供 7

立憲政治確立への道のり
大日本帝国憲法の制定まで

1867年（慶応3）に徳川幕府第15代将軍・徳川慶喜が天皇に統治権を返還する「大政奉還」が実施され、同年天皇は「王政復古の大号令」を発し、天皇が統治権を取り戻します。そして翌年1868年天皇が「五箇条の御誓文」で新しい政治の方針を示し、元号を明治と改めました。

明治政府は、江戸末期に欧米諸国と結んだ不平等条約により日本が植民地支配されることを危惧していて、憲法制定や議会による政治のしくみを早期に整えて、独立した近代国家として世界に認められることが必要と考えていました。

大日本帝国憲法を制定するまでの過程として、1875年（明治8）に「漸次立憲政体樹立ノ詔勅」を公布し、元老院・大審院・地方官会議を設置します。1881年（明治14）「国会開設之勅諭」が出され、1889年（明治23）までに国会を開き立憲政治を行うことを天皇の名で宣言します。

1882年（明治15）伊藤博文らがヨーロッパに渡り、各国の憲法を調査・研究し、帰国後、プロイセン王国（現在のドイツ）の憲法を参考に日本の歴史や伝統に適した草案作りに着手します。明治政府は天皇制国家を確立するため、憲法制定会議を実施せずに、天皇が定めた憲法いわゆる「欽定憲法」の構想で動き出していました。

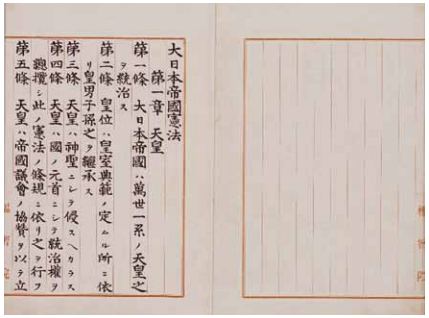
そして約10年の歳月をかけて構想された大日本帝国憲法を1889年（明治22）2月11日に発布し、同時に皇室典範、衆議院議員選挙法、貴族院令、議員法が公布されます。翌1890年（明治23）11月29日に大日本帝国憲法が施行し、初の総選挙と第1回帝国議会が開かれます。

こうして作られた大日本帝国憲法ですが、1947年（昭和22）に現在の日本国憲法が施行されるまで一度も改正されることなく、60年近くにわたり施行されていました。

大日本帝国憲法（抜粋）

1889年（明治22）2月11日、大日本帝国憲法が発布され、黒田清隆内閣の各国務大臣と伊藤博文枢密院議長らが署名しています。 5

臣民ハ此ノ憲法ニ對シ永遠ニ從順ノ義務ヲ負フヘシ
明治二十二年二月十一日
睦仁
内閣總理大臣伯爵黒田清隆
枢密院議長伯爵伊藤博文
外務大臣伯爵大隈重信
海軍大臣伯爵西郷従道
農商務大臣伯爵井上馨
司法大臣伯爵山田顯義
大蔵大臣兼内務大臣伯爵松方正義
陸軍大臣伯爵大山巌
文部大臣子爵森有礼
逓信大臣子爵榎本武揚


大日本帝國憲法
第一章 天皇
第一條 大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス
第二條 皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇男子孫之ヲ繼承ス
第三條 天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラス
第四條 天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此ノ憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フ
第五條 天皇ハ帝國議會ノ協賛ヲ以テ立

大日本帝国憲法と日本国憲法の比較

大日本国憲法		日本国憲法
天皇が定めた欽定(きんてい)憲法	性格	国民が定めた民定(みんてい)憲法
天皇	主権者	日本国民
法律の範囲内で認める	国民の権利	生れながらにして永久不可侵の人権がある
兵役、納税、(教育)	国民の義務	子女に普通教育を受けさせる、勤労、納税
天皇の協賛機関	国会	国権の最高機関、唯一の立法機関
天皇を助けて政治を行う	内閣	国会に対して責任を負う（議員内閣制）
天皇の名において裁判を行う	裁判所	司法権の独立

旧伊藤博文邸
滄 浪 閣

④

名　前：　伊藤 博文（いとう ひろぶみ）
幼　名：　利助
出身地：　周防国（すおうのくに・現山口県）
生没年：　1841.9 - 1909.10　享年69歳（暗殺）

内閣総理大臣就任歴（在任期間／年齢／日数）
初代（第1次）1885.12 - 1888.04　44歳　861日
5代（第2次）1892.08 - 1896.08　50歳 1485日
7代（第3次）1898.01 - 1898.06　56歳　170日
10代（第4次）1900.10 - 1901.05　59歳　204日

1841年（天保12）伊藤博文は農民の父・林十蔵と母・琴子の長男として、周防国熊毛郡束荷村（現在の山口県光市）に生まれました。家は貧しく、14歳の頃に父・十蔵が萩藩の下級藩士・伊藤家の養子となったことから、以後伊藤姓を名乗るようになります。

1857年（安政4）相模（現在の神奈川県）での江戸湾（東京湾）の警備の仕事を任されたときに長州藩士の来原良蔵と出会い、吉田松陰の松下村塾で学び始めます。才能はすぐに開花し、1859年（安政6）には桂小五郎（木戸孝允）に従い、長州藩の江戸屋敷に住み、同年の「安政の大獄」で吉田松陰が処罰されると、尊皇攘夷運動に加わり、やがて海外への憧れを強く抱くようになります。

1863年（文久3）井上馨らとともに藩主の内命を受けてイギリスへと旅立ち、英語からマナーまであらゆることを学びました。そしてイギリスの産業や文化、軍事力の発展に感激し、日本を開国させようと決意します。その後、長州藩とイギリス・フランス・オランダ・アメリカ連合艦隊の下関戦争の知らせを受けてすぐに帰国し、圧倒的な力で負けた長州藩を少しでも有利に導くために、学んだばかりの英語で和平交渉を行いました。

明治を迎えると新政府メンバーとして、これまでの活躍と英語力が認められ、参与や外国事務局判事などを歴任し活躍します。1871年(明治4)の岩倉使節団など数回の留学を経験し、貨幣法の制定や鉄道事業などに力を注ぎ、内閣制度の創設や大日本帝国憲法の制定の中心人物となり、政治家としての才能をさらに発揮していきます。

そして、1885年（明治18）12月初代内閣総理大臣に就任。44歳という若さでの就任はいまだ破られてはいません。その後、第5代、第7代、第10代と4度も内閣総理大臣を務めることになります。1900年（明治33）に自ら「立憲政友会」を結党し、初代総裁も務めます。

日清戦争や日露戦争を経て、1905年（明治38）初代韓国統監となり、朝鮮半島の政治体制を整えようとしていましたが、1909年（明治42）ハルビン駅で朝鮮の独立を目指す運動家の安重根（アンジュウコン）に暗殺され、幕末そして明治と激動の時代を全力で走りぬいた元勲・伊藤博文は惜しくも享年69歳で生涯を終えました。

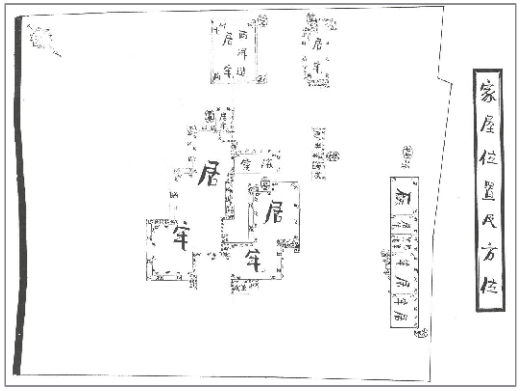
滄浪閣
伊藤博文本邸の時代

伊藤博文は小田原市に別邸を新築し、それを「滄浪閣」と名付け、1896年（明治29）まで小田原で過ごしていました。

1890年（明治23）頃、小田原の滄浪閣に向かう途中、当時大磯駅の北側にあった旅館招仙閣に宿泊した際、大磯の地を気に入り、梅子夫人の転地療養もかねて大磯に別邸を建築することを決意します。1896年（明治29）大磯の別邸が完成すると小田原の滄浪閣を引き払い、大磯の別邸を滄浪閣と名付け、翌1897年（明治30）には本籍を東京から大磯町に移したことで、滄浪閣は別邸から本邸となりました。

敷地は、5,500坪あり、東隣に佐賀藩最後の藩主・鍋島直大の別邸、西隣に西園寺公望別邸が建てられます。敷地には、写真のように和館（東側）と洋館（西側）が建てられていましたが、関東大震災で倒壊してしまいます。

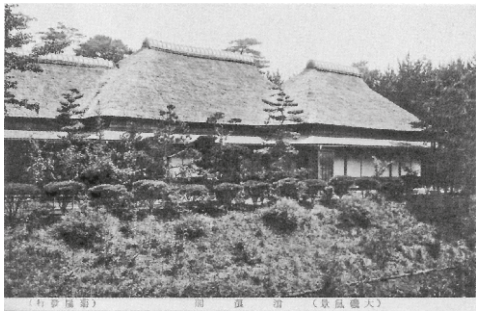
所在地：　神奈川県大磯町西小磯85
敷地面積：18,150 ㎡　（5,500坪）
和館：　茅葺木造平屋建　（延べ床面積 87坪）
洋館：　瓦葺レンガ造2階建　（延べ床面積 70坪）



土地家屋台帳の「家屋位置及方位」図
位置図に記載された洋館と写真の洋館とでは形状が異なっています。その理由については不明です。

■ 滄浪閣の名の由来

中国戦国時代の詩集・楚辞にある「滄浪之水清兮　可以濯吾纓　滄浪之水濁兮　可以濯吾足」（滄浪の水清まば、もってわが纓を濯うべく、滄浪の水濁らば、もってわが足を濯うべし）とされ、“何事も自然の成り行きにまかせて身を処する”という意味を表しています。


滄浪閣の和館　絵はがき（菊屋発行）　②
和館は東側に建てられ、茅葺き屋根の日本建築で、主に住居用として使用されたと思われます。写真は和館・洋館ともに南側（海側）からの撮影です。

滄浪閣の洋館　絵はがき（楊鶴堂発行）　⑥
洋館は西側に建てられ、伊藤公の居間や書斎のほか、来賓の接待室など、公的に使用されたと思われます。

滄浪閣
旧李王家別邸の時代

❶ 洋室部分の外観。

❷ 洋室「寝室」部分の内装。

❸ 洋室「食堂」部分の内装。

❹ 洋室「居間・客間」部分の内装。

❺ 和室部分の外観。

❻ 和室部分の内装。

伊藤博文没後、滄浪閣は養嗣子の博邦に相続されますが、1921年（大正10）に伊藤家が東京に転居することになり、滄浪閣は李王家の李垠（りぎん：イ・ウン）に譲渡され、李王家別邸として使用されるようになります。

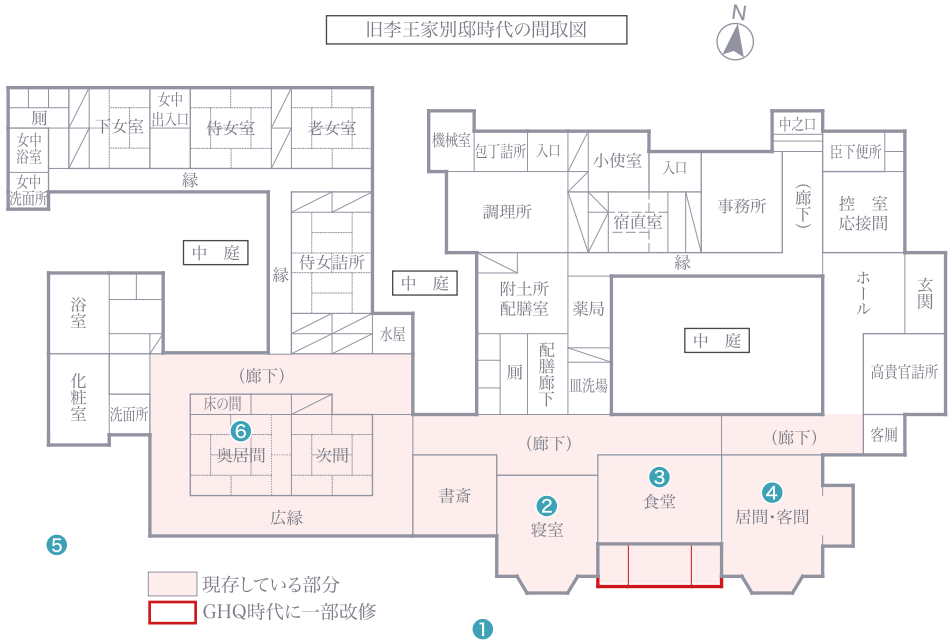
1923年（大正12）の関東大震災により滄浪閣は甚大な被害を受け、1926年（昭和元）に旧材を再利用して建て直されたと考えられます。「李王家大磯別邸平面図」が残っていて、現在でも建物の一部が残っています。建物は、和室と洋室をもつ和洋折衷の木造平屋建。東側にある玄関は、主人や来客用として使用されます。北側に家臣用や使用人（男性）用の入口や女中部屋が並ぶ一角が女中専用の入口となっていて、間取の配置から見ても主人と使用人の住み分けされているのが判ります。

■ 李垠（りぎん：イ・ウン） 1897-1970

大韓帝国（李王家）最後の皇太子で、1910年（明治43）日韓併合によって、皇太子を日本の皇族として育てることとなったため、王族として日本の皇族に準じた「殿下」の敬称を授かります。1920年（大正9）4月には皇族の梨本宮方子と結婚し、1926年（大正15）李王家を承継します。1917年（大正6）に大日本帝国陸軍入隊後、日本の軍人として宇都宮歩兵第59連隊長、北支那方面軍指令部、近衛歩兵第二旅団長などを歴任。終戦後は日本国憲法施行により王公族の身分と日本国籍も喪失してしまいます。

時代に翻弄された人生でしたが、1970年（昭和45）に亡くなり、今は李王家の宗廟「永寧殿」に眠っています。

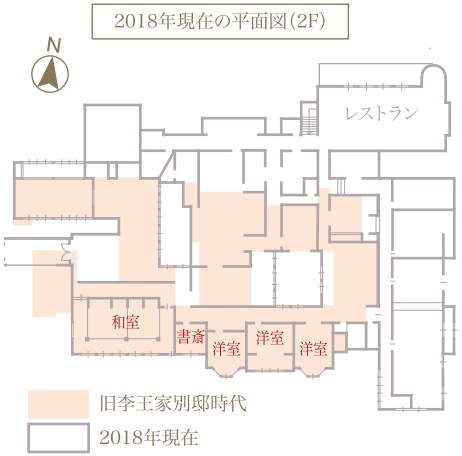
旧李王家別邸時代の間取図



滄浪閣
レストランの時代

第二次世界大戦後、旧李王家別邸はGHQに接収され、軍事施設として使用されていました。

1946年(昭和21)に政治家・楢橋渡(ならはしわたる)へ譲渡され、1951年(昭和26)西武鉄道の所有となり、1964(昭和39)からはレストランと結婚式場として活用されます。この間幾度か増改築されたため、南側(海側)の洋室(3室)と和室(2間:10畳・8畳)、書斎が旧李王家別邸当時の姿を残しています。



レストラン(中国料理)

四賢堂、五賢堂そして七賢堂

七賢堂 (旧吉田茂邸内)

伊藤博文が大磯に滄浪閣を建設して7年後の1903年(明治36年)に「四賢堂」と呼ぶ小祠を建て、維新の功労者の三条実美、岩倉具視、木戸孝允、大久保利通の霊を祭り、その肖像を祠に掲げました。伊藤没後の翌年、梅子夫人により新たに伊藤も合祀されたことで「五賢堂」と呼ばれ、滄浪閣と共に五賢堂も李王家に譲渡されます。

1960年(昭和35)に吉田茂は自身の邸宅へ五賢堂を遷座し、1962年(昭和37)西園寺公望を合祀。吉田の死後、吉田自身も合祀されて「七賢堂」となり、堂には佐藤栄作筆の七賢堂額が掛けられています。

白岩神社と藤公神社

滄浪閣のある西小磯地区には、氏神様の白岩神社が北側の山麓にあり、伊藤の1周忌には小祠「藤公神社」が境内に建てられ伊藤を祀りました。この祠の中には伊藤の胸像(白井雨山作)と立像(齊藤静美作)の2体の小さな銅像が安置され、毎年3月の白岩神社祭礼の1日だけ扉が解放され、一般に公開されます。

■白岩神社例大祭について
毎年3月上旬の日曜日に豊作や豊漁を祈願して執り行われ、馬に乗り矢を射る「流鏑馬(やぶさめ)」とは異なり、社人が歩いて的をいる「歩射(ぶしゃ)」が行われる珍しい神事です。

旧大隈重信邸

④

名　前:　大隈 重信 (おおくま しげのぶ)
幼　名:　八太郎
出身地:　肥前国(ひぜんのくに・現佐賀県)
生没年:　1838.9 - 1922.1　享年85歳

内閣総理大臣就任歴 (在任期間/年齢/日数)
8代(第1次) 1898.06 - 1898.11　60歳　132日
17代(第2次) 1914.04 - 1916.10　76歳　908日

1838年(天保9年)肥前国(ひぜんのくに)佐賀城下会所小路(現在の佐賀市水ヶ江)に、佐賀藩砲術長の父信保の長男として生まれました。

明治維新後、新政府の徴士参与職(官僚)、外国事務局判事などを経て、1870年(明治3)参議となります。1873年(明治6)大蔵省事務総裁、ついで大蔵卿に就任します。参議兼大蔵卿となった大隈は強固な省庁である大蔵省を作るため民部省を合併させ、大蔵省を巨大権益を持つ一大官庁にします。

大蔵省の力をして地租改正の改革や機械制工業の導入、鉄道網の整備など殖産興業を押し進め、会計検査院を設立して初代院長にも就任しました。征韓論争後、財政の責任者として大久保利通を補佐しますが、1881年(明治14)の政変で失脚してしまいます。

1882年(明治15)立憲改進党を組織し、小野梓や高田早苗(早稲田大学初代学長)らと「学問の独立」「学問の活用」「模範国民の造就」を掲げて、東京専門学校(早稲田大学の前身)を創立します。

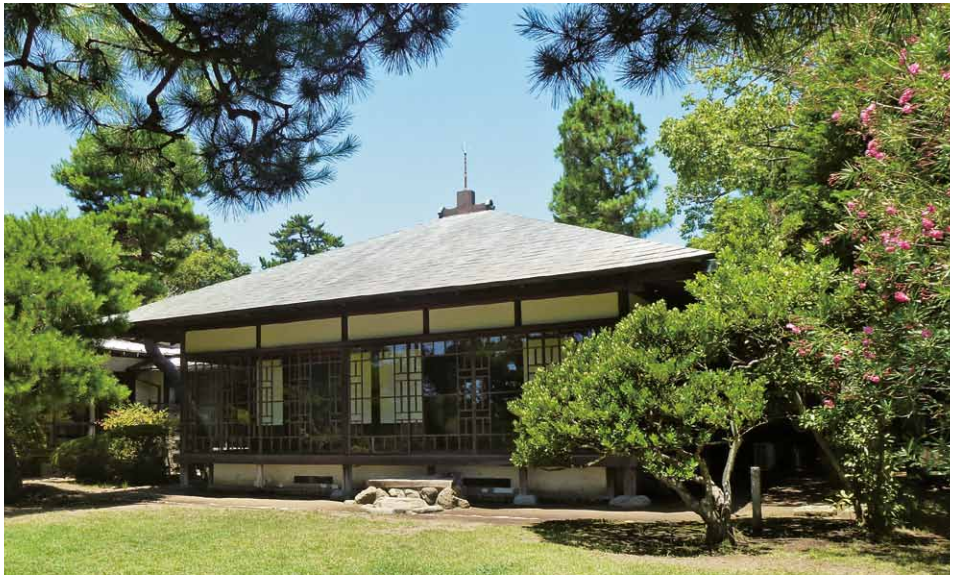
大隈重信像 (早稲田大学)

1888年(明治21)より第1次伊藤内閣、黒田内閣で外相として不平等条約改正に携わり、1896年(明治29)第2次松方内閣でも外相兼農商務相を歴任します。1898年(明治31)板垣退助と共に憲政党を結成し、初の政党内閣を組織しますが、党内抗争と薩長派の妨害でわずか4ヶ月で総辞職してしまいます。

1907年(明治40)政界を引退し早稲田大学総長となり、文明協会を創立して欧米の名著を翻訳出版や多数の著書を刊行するなど文化運動に励んでいましたが、のちに再び政界に復帰。1914年(大正3)第2次大隈内閣を組織して第1次世界大戦に参戦。1916年(大正5)に大隈内閣が総辞職したのち議員生活に終止符を打ち、完全に政界から引退します。そして1922年(大正11年)に胆石症のため83歳で死去しました。

旧大隈重信邸
古河家別邸・西館の時代（外観）

富士の間



神代の間

所在地：　神奈川県大磯町西小磯285
敷地面積：旧大隈重信邸と旧陸奥宗光邸とも
（約8,000坪）
和風建築：木造平屋建　寄棟・アルミ板棒葺
下見板張　（延べ床面積 110坪）

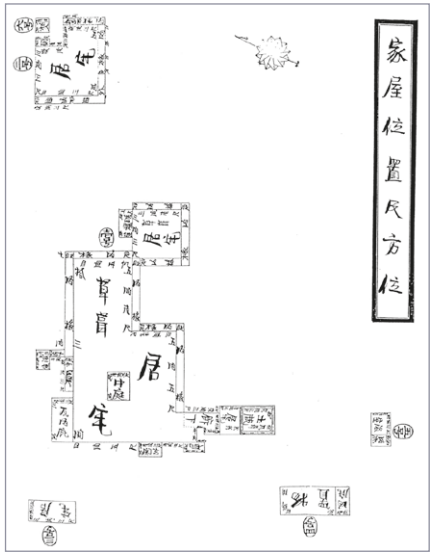
西向きの玄関と車寄せ

大磯中学校の西隣の敷地（約8,000坪）に「旧大隈重信邸」（西館）と「旧陸奥宗光邸」（東館）があります。

伊藤博文が大磯に滄浪閣を建てた翌年の1897年（明治30）に大隈重信は大磯に別邸を建設します。大隈がこの別邸を使用したのは古河市兵衛に譲渡するまでのわずか4年間でした。関東大震災にも耐え、古河家から古河電工株式会社に所有が変わった後も維持管理されていたため、居室部分はほぼ往時のままの姿で保存されています。

建設当時、西隣には最後の佐賀藩主・鍋島直大の別邸（現在はマンション）があり、家相上悪いとされる西側にわざわざ玄関を配置し、主君への忠義を示しています。玄関を上がると10畳と16畳の大広間「富士の間」があり、社交家の大隈はここでよく宴を開いたと言われています。「富士の間」から中庭をはさんで東奥に神代杉を使った「神代の間」と呼ばれる和室があり、書斎として使用されていました。

神代の間より庭と海を望む



土地家屋台帳の「家屋位置及方位」図

旧大隈重信邸
古河家別邸・西館の時代（内装）

❶「富士の間」　16畳と10畳の続きの間で26畳の大広間。広縁部分は数回改築されています。

❺「神代の間」　書斎として使用。随所に貴重な神代杉が用いられています。 3

❷ 丸い鏡のある玄関の正面。

❸ 応接間。

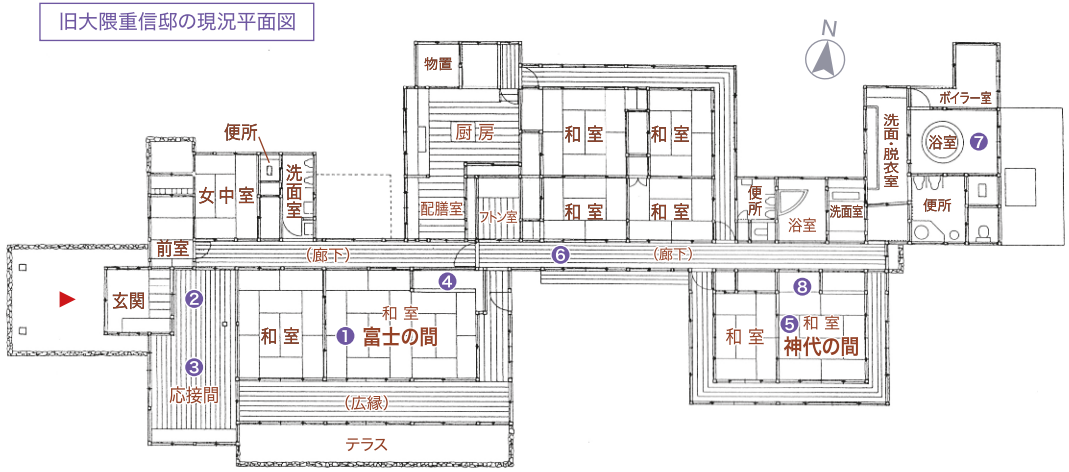
❹「富士の間」床の間とサルスベリの床柱。 3

❻ 欅の一枚板で張られた中廊下。3

❼ 伊豆石で作られた特徴のある円筒形の浴槽。 3

❽ 神代杉の戸板と竹の床柱。 3

旧大隈重信邸の現況平面図



現在の建物は明治期の土地家屋台帳と比較して水回り部分が増改築されていますが、居室部分はほぼ当時のままの形で保存されています。

かつて宴を開いた大広間「富士の間」には、床の間と付書院があり、床柱には面取りされた百日紅（サルスベリ）が使用されています。中廊下を東に行くと「神代の間」と呼ばれる9畳の和室があり、神代杉をふんだんに使用し、床の間には欅（ケヤキ）の一枚板と竹の床柱があります。

以前、この部屋には暖炉があり、大隈が爆弾襲撃を受けて片足を切断したため、冬は暖かい部屋で過ごすようにとの配慮から設置したものと思われます。

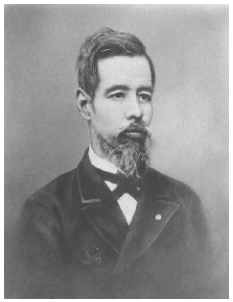
■ 神代杉（じんだいすぎ）

千年以上もの長い間地中（火山灰）や湖底に埋もれていた杉を神代杉と呼びます。長い時間をかけて土や火山灰などの成分がゆっくりとしみ込んでいき、中まで灰褐色をしています。中には卵の黄身のような色をしているものもありますが、再び空気と光にふれると色を変え、薄い墨色のようになります。木目が美しく、磨けば磨くほどに艶が出るのが特徴で、その渋味のある色調が喜ばれ、わび、さびが求められる数寄屋、茶室の材料、工芸品などに使われています。

■ 神代の間のガラス

明治の頃、板ガラスは西欧で行われていた大型手吹き円筒法という製造方法が用いられていました。息を吹き込むのと同時にガラスを左右に振ることでガラスを円筒状にし、円筒のガラスに縦に切れ目を入れて平らに伸ばす製法です。この製法では平らな板ガラスに歪みができ、外の景色がゆがんで見えます。神代の間のガラス戸は、この製法で作られています。

旧陸奥宗光邸


④

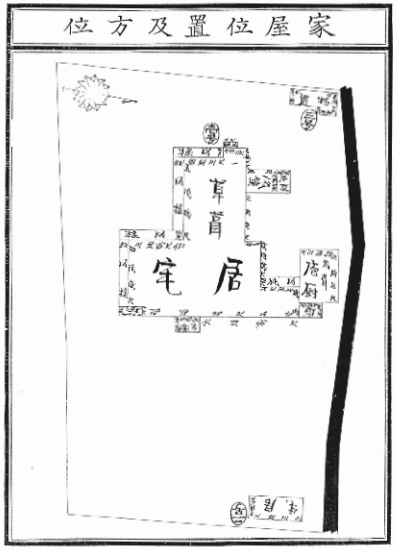
名　前：　陸奥 宗光（むつ むねみつ）
幼　名：　牛麿
出身地：　紀伊国（きいのくに・現和歌山県）
生没年：　1844.8 - 1897.8　享年54歳

1844年（天保15）紀伊国（きいのくに　現在の和歌山県）の紀州藩士・伊達宗広の六男として生まれました。1863年（文久3年）勝海舟の神戸海軍操練所に入り、1867年（慶応3）坂本龍馬の「海援隊」に参加し、明治維新後は外国事務局御用掛や兵庫・神奈川県知事、大蔵省租税頭、元老院議官などを歴任します。

1878年（明治11）政府転覆を企図した土佐立志社事件への関与が発覚して免官となり、禁錮5年の刑を受けます。出獄後、伊藤博文の勧めでヨーロッパへ留学、1886年（明治19）に帰国してすぐ外務省に入省します。1888年（明治21）駐米全権公使に就任し、1890年（明治23）第1回衆議院総選挙で当選し、第1次山縣内閣、第1次松方内閣の農商務相、第2次伊藤内閣では外相を歴任します。1894年（明治27）日英通商航海条約に調印し、領事裁判権の回復を実現させます。また、対清強硬路線をとり、日清戦争開戦へと導き、講和・三国干渉の処理に活躍しましたが、1897年（明治30）肺結核で死去しました。

陸奥宗光は、1894年（明治27）に大磯に土地を取得し、別荘を構えます。1896年（明治29）病気を理由に外務大臣を辞して、大磯などで療養生活を送りますが、翌年に他界。陸奥の次男・潤吉が古河市兵衛（古河財閥創始者）の養子になっていたことで大磯別邸は古河家へ譲渡されますが、関東大震災で建物はひどく損傷を受けたため、三代目当主・虎之助が母のために1925年（大正14）に建て替えます。

陸奥が所有していた頃の土地家屋台帳と現況図を比べてみると、玄関と主な居室部分は復元されているものと思われます。数寄屋風の建物で玄関入口には「聴漁荘（ちょうぎょそう）」の扁額が掲げられています。



土地家屋台帳の「家屋位置及方位」図

所在地：　神奈川県大磯町西小磯285
敷地面積：旧大隈重信邸と旧陸奥宗光邸とも（約8,000坪）
和風建築：木造平屋建　寄棟・桟瓦葺
　　下見板張　　（延べ床面積 110坪）

旧陸奥宗光邸
古河家別邸・東館の時代（外観）

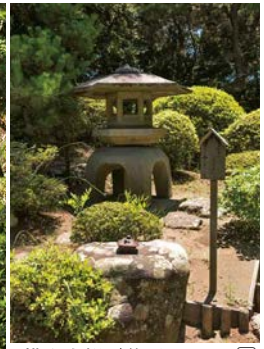
母屋（応接間兼主人室）　のびのびとした数寄屋風の建築。

応接間兼主人室から雁行型（がんこうがた）に配置された間取。

「聴漁荘」の扁額が掲げられた玄関入口。③

南側日本庭園から見える母屋（応接間兼主人室）

日本庭園の滝


横山大観画伯が、この岩に座って庭園の滝を描きました。絵は掛軸に表装され、床の間に掛けられています。③

旧陸奥宗光邸
古河家別邸・東館の時代（内装）

❶ 応接室兼主人室（10畳、8畳の和室二間続き）。 3

❼ 応接室兼主人室から鉤の手に縁側を西に行くと二間の和室（家族用）と茶の間に続きます。

❷ 横山大観掛軸。

❸ 書生室。 3

❹ 木目が美しい屋久杉の棚。 3

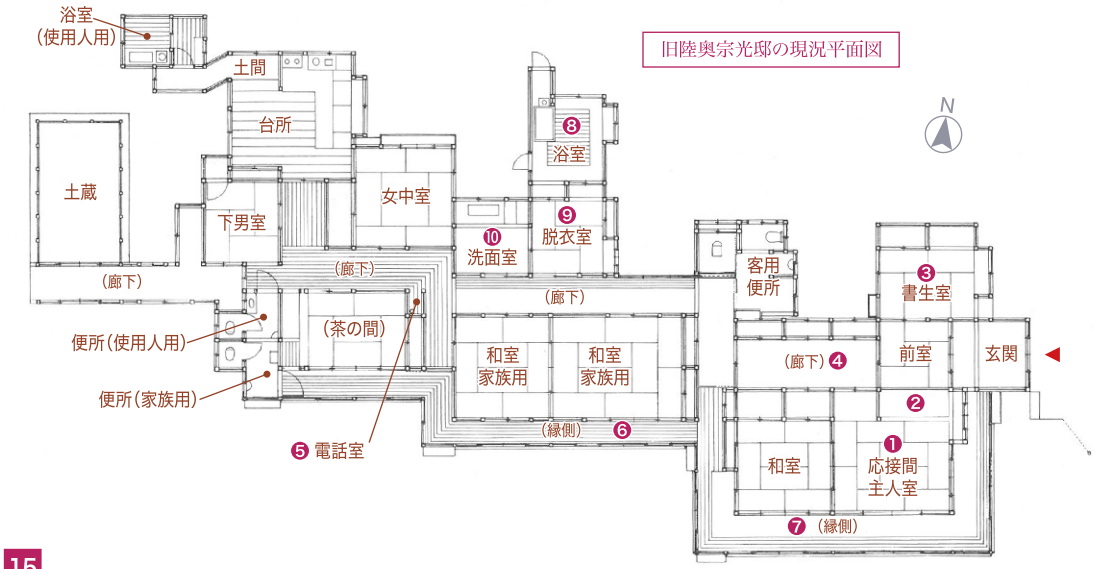
❺ 電話室。

❻ 家族用和室 3
前の縁側。

❽ 浴室　換気機能のある天井。 3

❾ 脱衣室　窓は曇りガラスを使用。 3

❿ 洗面所。



この別邸は太田晦巌老師の撰名で「聴漁荘」（ちょうぎょそう）と名付けられ、老師の揮毫による扁額が玄関入口上部に掲げられています。玄関を入り前室の南側に二間続き（10畳・8畳）の広い「応接間兼主人室」があります。三方が縁側に囲まれた明るい部屋で南側（海側）は日本庭園を見下ろす景色が広がります。床の間には、敷地内の日本庭園の滝を描いた巨匠・横山大観の掛軸が掲げられていました。縁側を鉤の手に西に行くと家族用和室（二間：10畳、8畳）と茶の間（6畳）に続きます。

玄関を上がった前室の先は中廊下、北側は書生室となってます。中廊下には木目の美しい立派な屋久杉の棚が据え付けられ、目を引きます。さらに中廊下を進むと南側に家族用和室、北側に浴室・脱衣室・洗面室があります。浴室は大きな曇りガラスを使った格子窓のため室内はとても明るく、天井は湯気を換気する構造となっていて、シャワーも取り付けられています。

中廊下をさらに進んだ建物の一番奥には、南側に茶の間、北側に女中室・下男室・台所・使用人用浴室などがあります。茶の間に隣接して電話室、西側に使用人用と家族用の便所があり、茶の間の縁側から家族用便所へ直接行くことができます。建物全体が生活動線を考慮した機能的な間取となっていると言えます。

明治記念大磯邸園
次世代に残す取組と記念公開について

明治期以降、大磯には多くの著名人が邸宅を建てますが、関東大震災による倒壊や老朽化による取り壊しや売却などが進み、その多くが失われつつあります。国道1号・松並木の海側一帯には旧伊藤博文邸（滄浪閣）、旧大隈重信邸、旧陸奥宗光邸及び旧池田成彬邸（旧西園寺公望邸跡）の建物群が存在しています。

国では、これらの建物群や緑地を一体的に保存・活用するため、「明治150年」関連施策として、県・町と連携し、「明治記念大磯邸園」の整備を進めています。

2018年は、明治元年から150年にあたることを記念し、一部の区域を公開します。旧大隈重信邸や旧陸奥宗光邸等の庭園の観覧、邸宅のガイドツアーとともに、明治期の立憲政治や各邸宅の人物にゆかりのある資料の展示を行います。

明治期は日本における立憲政治の原点であり、その確立に向かって奔走した先人たちの思い（精神）を今一度学ぶことで、現代社会で忘れてしまった大切な何かに気づく、良い機会になるのではないでしょうか。

【問い合せ先】
国営昭和記念公園事務所・大磯分室
HP http://www.ktr.mlit.go.jp/showa/

■参考文献

・大磯町教育委員会：『大磯のすまい』1992年
・大磯町郷土資料館：『伊藤博文没後100年記念展 滄浪閣の時代』　2009年
・大磯町：『おおいその歴史』大磯町史11 別編 ダイジェスト版　2009年

■写真提供（順不同・敬称略）

① 大磯町
② 大磯町郷土資料館
③ はまぎん財団（撮影：内山政彦）
④ 国立国会図書館「近代日本人の肖像」より
⑤ 国立公文書館デジタルアーカイブより
⑥ 湘南軌道 https://zakixzakix.jimdo.com/
⑦ （公社）大磯町観光協会

■取材・編集協力（順不同・敬称略）

・国土交通省
・神奈川県
・古河電気工業（株）
・大磯町（都市計画課）
・大磯町郷土資料館
・（公社）大磯町観光協会

【参考文献】
伊藤博文没後100年記念
— 滄浪閣の時代 —
（編集）大磯町郷土資料館　（A4・40頁）
（発行）2009年10月24日（第1刷）
2015年６月19日（第2刷）

＊大磯町郷土資料館にて販売されています。

■アクセス

徒歩：ＪＲ大磯駅前より 徒歩15分
バス：神奈中バス「統監道」又は「白岩大門」下車、徒歩5分

バス系統（大磯駅前）
磯07 大磯プリンスホテル行
磯13 西公園前行
磯14 二宮駅北口行
平47 二宮駅南口行
※季節限定運行や催事等により運行が変更になる場合があります。

■編集後記

今回発行の大磯建物語は、国の「明治記念大磯邸園」整備を受けて、2018年に記念公開される3邸宅（旧伊藤博文邸、旧大隈重信邸、旧陸奥宗光邸）を1冊にまとめて紹介しています。

明治期の立憲政治確立に向けた歴史を語る中で、大日本帝国憲法の起草・制定は一大プロジェクトでした。その流れや背景を知ることは重要なポイントでしたが、歴史が苦手だったことに気づき、恥ずかしながら中学で習うレベルの内容から学び直した次第です。本誌での内容もこのレベルに納めていますが、それでも学んでいくうちにこの一大プロジェクトにかかわった先人たちの人間模様（ドラマ）も見えて、一層興味が湧いてくるようになりました。次は高校レベルに挑戦です。憲法制定はゴールではなく、憲法が機能する法律や機関などの仕組みづくり、憲法の解釈問題などへと歴史は続きます。

現在の私たちの憲法は「日本国憲法」で、国民が定めた民定憲法です。憲法を知ることは私たち国民に与えられた義務でもあると思います。皆さんも明治記念大磯邸園を訪れた際には、憲法の本質に触れてみてはいかがでしょうか。

最後に、この冊子を制作するにあたり関わってくれた皆さんには心から感謝しています。

大磯建物語④ 「明治記念大磯邸園」
旧伊藤博文邸・旧大隈重信邸
旧陸奥宗光邸
2018年10月 初版発行　（発行部数：15,000部）

編集・発行　大磯まちづくり会議
〒259-0102 神奈川県中郡大磯町生沢969-3
（株）アスデザインアソシエイツ内
☎ 0463（73）2002
✉ oiso.machidukuri@gmail.com

大磯建物語④

明治記念大磯邸園

旧伊藤博文邸｜旧大隈重信邸｜旧陸奥宗光邸

発行

大磯まちづくり会議